



こんな時
こんな本

何もかも脱ぎ捨てたいほど暑かった夏がようやく去って、おしゃれの秋がやってきます。現代は「人は見た目」の時代とか。ファッションを考えるための本を集めました。

(中島耕太郎)

たかが服、されど服

まず、自分に何が合うのか知らないことには、おしゃれは始まらない。身長や体形は客観的なデータで把握できても、よくわからないのが色だ。そこで、色の専門家が書いた①『色でキレイを手に入れる!』。肌や髪など、その人の持つ色みと、服の色との組み合わせが重要という。自己診断の項目もあり、自分の肌が黄色っぽいか、青みがかっているかが判別できる。

以前、著者を招いての本の紹介イベントを店で開いたといふ矢部さんも「『おおっ!』と目ウロコ(目からうろこが落ちる)。自分に似合う色、似合わない色が心から納



①今井志保子著、2003年(日本実業出版社、1575円)



②押田比呂美著、07年(KKベストセラー社、1523円)



③齋藤薫著、09年(講談社、1575円)



記者のお薦め

④中野香織著、09年(新潮選書、1260円)

得できた」という。その人の色のタイプを「春夏秋冬」の四つに分ける『働く女性のための色とスタイル教室』(七江里紀著)も薦められた。記者が試したところ、明るく春めいた色の服を選ぶべきだそう。落ち着いた色が好みだったので、妻から「やっぱりわかつていなかつ

確かに身に着ける物は内面に作用する。おしゃれを通して「ライフスタイルまで語る」が、美容ジャーナリストによるエッセー③『されど「服で人生は変わる』。「じつく」と生きざまを活写する。歴史

学。内側から元気が出るサポートのようだ』と矢部さんは、読み物として面白い。『男は中身』と考えてきた人には、身だしなみを考える契機になるかもしれない。

リブロ池袋本店

矢部潤子さんに聞く

おしゃれを磨く

た」と痛い一言をもらつた。

次は小物やコートなど服飾

品ごとに着こなしのノウハウ

を説く②『コーディネート

大人の法則』。ファッション

誌上で道行く人のおしゃれを

「摘発」し、「コーディネート

刑事」の異名を持つスタイ

リストが、「大人の女性向け

に、自信が出るパワー・コー

ディネート』(矢部さん)を

助言。ヒョウ柄や金色など、

派手で迫力あるものは、元氣

を生み出すという。

確かに身に着ける物は内面に作用する。おしゃれを通して「ライフスタイルまで語る」が、美容ジャーナリストによるエッセー③『されど「服で人生は変わる』。「じつく」と生きざまを活写する。歴史

学。内側から元気が出るサプ

トメントのようだ』と矢部さ

失恋したら、それまでの自

分を超えるためにより上等な

靴を2足買え。雨の日こそ自

己の良さを磨く。いつぱいのおしゃれをしよう。

「きちんと、ほど人を

キレイに見せるものはない」

「頭の良さ」と「洗練」は

どうしたって切り離すことが

できない」といった心構えは

男性にも参考になるだろう。

記者からは男性向けに、服

飾史家による④『ダンディズ

ムの系譜』男が憧れた男た

ち』を。19世紀初頭に現代紳士服の基礎を作ったボーブ

ランメルから、ジエームズ・

ボンド、米国のオバマ大統領

まで、ダンディーな16人の服

まで、ダンディーな16人の服

ひらく、ひろがる。



◆紹介した本を各1冊、計4人に差し上げます。住所・氏名・年齢と書名を明記し、はがきでテ104-8011朝日新聞be「再読」係へ。23日の消印まで有効です。また、アサヒ・コム(<http://book.asahi.com/saidoku/>)から購入できます。